



# おもすの森

発行  
大本山 本門寺根源  
山務所  
富士宮市北山4965  
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人

御 聖 訓

一生はゆめの上、明日をご（期）せず。いかなる乞食にはなるとも、法華経にきずをつけ給べからず。

『四條金吾殿御返事』

この御遺文は、建治三年（一二七七）七月、身延山の日蓮大聖人から鎌倉の信徒である四條金吾頼基（しじようきんごよりもと）に与えられた御手紙です。

この年、大聖人の門弟である三位房（さんみぼう）が鎌倉の桑ヶ谷（くわがやつ）に於て比叡山の僧侶である龍象房（りゆうぞうぼう）と問答した「桑ヶ谷問答」という事件がありました。四條金吾はその現場に居合わせたの

ですが「兵杖を帶して乱入した」と無実の罪を着せられ、主君である江間氏から法華経信仰を捨てなければ領地を没収するとせまられたのです。

このような状況下で大聖人がしたためられたのが冒頭に掲げた一節です。「一生は夢の如しで、人はみな明日の命もわからない。あるいは乞食をすることもあるかも知れない。けれども断じて法華経に傷を付けてはならぬ」という文意です。

私たちも生きて行く上で様々な境遇に晒されることがありますが、法華経に傷を付けるような生き方だけは慎みましょう。世間に評価されなくとも良いですから教主釈尊に褒められる生き方を致しましよう。

## 第12回 清掃奉仕のお願い

10月24日(金) 午前9時～10時30分(雨天翌日)

今回の清掃奉仕は、11月の当山御会式を迎える為の道場莊嚴であります。

清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流しましょう。

そして、清らかな気持ちで御会式に是非ご参拝下さい。

=持ち物=

清掃用具・草刈り機・ブロワー等、お持ちの方はご持参ください。

燃料は本山で用意致します。



## 御大事御本尊会

七月十九日（土）、御大事御本尊会が奉修されました。毎年夏季の土用丑の日に特別に奉奠される御大事御本尊は今年も暑さが厳しい中厳修され、参拝者は汗を流しながら一心に御題目をお唱えし、疫病退散をお祈りしました。

その後、恒例の檻祓いにおいて、参拝者皆様の暑気払い・身体健全・無病息災をご祈念しました。又御宝前にお供えした五穀米を皆様にお配りし、ご希望の方には御大事御本尊の御守札を授与致しました。

御希望の方は当山までお問い合わせ下さい

御大事御本尊御守  
衆病悉除  
疫病退散



この度、遠忌事業の一環として、まず最初に本堂及び開山堂屋根修繕に着手させて頂きました。修繕工事（七月二十二日～十月末の期間）は、寺社屋根の銅板葺に信頼のおける小野工業所様にお願いし作業を進めております。既に本堂正面の屋根は写真の通り完了しております。現在は本堂背面の屋根に取り掛かっております。長年にわたり本堂及び開山堂の雨漏りに、酷く悩まされておりましたが、ご丹精頂きました方々の御力添えによつて、修繕出来る事に感謝を申し上げます。

植	岩	井	石	石	石	松	霜	加	植	福	宗	本	本	
松	崎	上	川	川	川	尾	田	藤	崎	泉	川	源	禪	禪
繁	功	英	真	貴	久	隆	康	江	幸	寺	寺	寺	寺	寺
彦	一	之	一	久	男	一	弘	玉	久	様	様	様	護	持
様	様	様	様	一	實	一	一	江	一	謙	良	直	持	会
一	口	口	口	口	容	口	口	口	口	正	太	純	會	會
口	口	口	口	子	子	口	口	口	口	人	子	一	會	會
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	多	悦	年	會	會
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	惠	子	一	會	會
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	之	子	口	會	會
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口

遠忌事業丹精者 御芳名

末寺寺院・護持会	檀信徒	教師
福泉寺様	宗川寺様	青田 隨鐘 様
三十口	三十口	五百口
四十口	四十口	
五十口	五十口	
六十口	六十口	
七十口	七十口	
八十口	八十口	
九十口	九十口	
一百口	一百口	

令和十三年 高祖日蓮大聖人第七百五十遠忌 また翌十四年 御開山白蓮阿闍梨日興上人第七百遠忌を迎えるに際し、発願致しました「御報恩事業勧募」に際し、格別なる御懇志を賜り、心より御礼申し上げます。尚、十月一日以降に御志納された方々の御芳名は次号で報告掲載させて頂きます。

## 遠忌事業丹精者の報告

渡	渡	増	堀	原	林	内	陶	津	高	齊	小	木	加	加	植
邊	邊	田	田	藤	藤	藤	山	田	崎	藤	宮	野	藤	藤	松
月	月	田	田	田	田	田	田	田	正	律	小	久	年	直	武
義	義	政	正	洋	洋	多	良	正	人	子	宮	保	靖	純	秀
夫	夫	廣	弘	壽	壽	惠	子	人	雄	悦	小	田	子	一	洋
九	九	み	み	之	之	子	良	正	多	子	林	久	靖	年	一
月	月	を	を	子	子	子	子	人	惠	子	藤	保	子	一	之
三十	三十	廣	廣	弘	弘	子	子	子	惠	子	山	田	子	一	子
日	日	政	政	正	正	子	子	子	之	子	田	久	子	一	子
迄	迄	義	義	廣	廣	子	子	子	子	子	山	保	子	一	子
揭	揭	夫	夫	弘	弘	子	子	子	子	子	田	田	子	一	子
載	載					子	子	子	子	子	田	久	子	一	子

## 日蓮大聖人御会式法要

十一月十三日は本山での御会式法要がございます。御会式とは宗祖日蓮大聖人が池上本門寺にてご入滅なされた日に行う法要を指します。主に十月十三日を中心に行う法要を催し池上本門寺では数十本の万燈行列をなし読経をして盛大な祭事としても知られています。

日蓮大聖人は弘安五年（一二八二年）十月十三日

辰の刻（午前八時）武藏国池上郷の池上宗仲氏の館（東京都大田区）にてたく

さんの門下に囲まれ御経読誦のなか六十一歳をもつてご入滅なされました。



出典：日蓮宗ポータルサイト、本山 池上 大坊 本行寺

本山では旧暦になぞらえ十一月十三日にご回向し前日の十二日には「御逮夜法要」を行います。

毎年全国各地で盛大に行う御会式ですが、私達の祖である大聖人がご入滅され

を悲しみ弔う法要ではあります。もちろん弔いの心があつてはならないというわけではありません、ですが本来の目的は日蓮大聖人とその御生涯に対し「報恩

た日になぜこのような祭事として盛大に行うのでしょ  
うか、大聖人の御命日忌悲しみ弔うべきではないかと  
一見真逆に思えるこの行いですが、この「御会式」の目的は日蓮大聖人のご入滅として盛大に行う法要の趣旨であります。「報恩会式」とも呼ばれるほどです。

この報恩とは恩に報いる事を指し、大聖人もこの報恩をとても大切にしておられました。大聖人は生涯たくさんのお手紙や文章をしたためられておりますが、その中でもこの報恩という言葉はとてもたくさんでできます。

「報恩抄」という御遺文もあるほどです。これは大聖人の御師にあたる「道善御房」に送られたお手紙になります。この報恩は御会式だけでなく日々の生活の中でも欠かしてはなりません、皆様もまずは十一月三日本山で行われる「御会式法要」ひいては十二日に行われる「御逮夜法要」ご参列頂き日蓮大聖人の生涯への報恩感謝をご

## 日蓮大聖人第七百四十四遠忌 御報恩会式

### 御逮夜法要

11月12日（水）18時30分より

法要後 奉納太鼓・法話(川名義敬上人)

大聖人の御命日忌ですので、是非ご参拝ご焼香下さい

### 御正当法要

11月13日（木）11時00分より

令和七年八月十六～十七日  
おもす道場 開校

『流しそうめん』

本門寺において第四回「おもす道場」が昨年に引き続き開催されました。本年は、山梨県・静岡県の日蓮宗宗務所のご協力を頂いての合同開催となり、三十六名の子供達の元気な声が境内に響くなれました。

『境内散策』

体験内容は：本門寺の広い境内を時間をかけながら散策し諸堂の説明や、梨の木・本門寺堀のいわれを聞き、また七本杉をまじかに見てその凄さに驚きの表情を隠しきれませんでした。こうして、約七百三十年という長い歴史を肌で感じました。

本門寺において第四回「おもす道場」が昨年に引き続き開催されました。本年は、山梨県・静岡県の日蓮宗宗務所のご協力を頂いての合同開催となり、三十六名の子供達の元気な声が境内に響くなれました。



開校式及び自己紹介が行われました。



重須孝行太鼓の方々に協力頂き、子供達は大小様々な和太鼓に触れ、演奏を聞いたり、自らバチを持って叩き方を教えてもらいました。

『竹灯籠作り体験』

重須孝行太鼓の方々に協力頂き、子供達は大小様々な和太鼓に触れ、演奏を聞いたり、自らバチを持って叩き方を教えてもらいました。



『食事』

食の大切さの説明により、命を頂く事の有難さや、食事を作つて頂いた人達・食材に携わる人達への感謝の気持ちを学び、【食法】をお唱えました。

栄えは大人顔負けの物があり、その力作にほつとした表情を浮かべながら、笑みがこぼれおりました。

子供達は、とても楽しそうに一時を過ごしました。

富士市のボランティア団体「イルネット様に、竹灯籠作成のお手伝いを頂きました。本山にある竹を使用し、子供達は初めて電動ドリルを手にして不安と好奇心の内、一点を見つめ集中し竹筒に穴を空けました。怪我無く、無事に完成する事になりました。

『レクリエーション』  
孝行太鼓の父兄による趣向を凝らした縁日・スイカ割り・花火等でコロナ禍以降各地で見る機会も減った遊びに



『唱題行』  
堂内の明かりは昼間に作成した竹灯籠に口ウソクを灯しました。幻想的な空間を作りました。自分自身を見つめ直し高鳴つた心を静め、御題目をお唱えし一日目の締めくくりとなりました。



## 『朝のお勤め』

人々が朝、おはようと挨拶するのと同じようにお寺では、朝早く起きて御本尊様・日蓮大聖人に御給仕をし、併せて人々の安穏な一日を送れるようにお祈りする事がお勤めです。

子供達は普段よりも早くに起床し、眠たい目をこすりながら、お寺の修行で一番大切なお勤めに参加し、慣れないお経を一生懸命に声を出してお唱えし、今日一日が穏やかである事をお祈りしました。



『本堂掃除』  
朝のお勤めの後、皆で広いお堂の中を隅から隅まで雑巾掛けをし、体と心の垢を取り除く作務行を体験しました。



購読者の皆様も日常の五心を心掛け、穏やかな日々をお過ごしください。

この時間では、現代に於いて技術の発展により、スマートフォンでのメール等が主流

## 『写経・手紙』

この時間では、現代に於いて技術の発展により、スマートフォンでのメール等が主流

『日尊上人と梨の木の寸劇』  
本門寺のお坊さんによる、劇が披露され子供達もお坊さん達の初めての演技に釘付けになりました。盛り上がり楽しみながらも本門寺の歴史をまた一つ学ぶ事が出来ました。

## 『閉校式』

子供達が苦戦しながらも一生懸命に作った数珠を手に持ち、家を離れての二日間のお寺で体験した事の締めくくりとして、御題目に感謝の気持ちを込め日蓮大聖人に感謝しました。

生活の中で大切な五心  
「はい」という素直な心  
「おかげさま」という謙虚な心  
「すみません」という反省の心  
「私がします」という奉仕の心  
「ありがとうございます」という感謝の心

購読者の皆様も日常の五心を心掛け、穏やかな日々をお過ごしください。

の中、一泊二日のおもす道場での体験を通じ「五心」で習ったお経文を書写し、普段なかなか書き慣れない手紙に友人へ感謝の気持ちをしたためています。

## 『日尊上人と梨の木の寸劇』

本門寺のお坊さんによる、劇が披露され子供達もお坊さん達の初めての演技に釘付けになりました。盛り上がり楽しみながらも本門寺の歴史をまた一つ学ぶ事が出来ました。

劇が披露され子供達もお坊さん達の初めての演技に釘付けになりました。盛り上がり楽しみながらも本門寺の歴史をまた一つ学ぶ事が出来ました。

皆さんにはこの道場の趣旨をご理解頂き参加をして頂いた事に感謝し、来年もおもす道場に来て頂くことを願います。」と御挨拶されました。参加した子供達は、出迎えの家族に少し遅くなつた表情を見せつつ、短い時間ではありました。が一緒に過ごした友達と名残惜しそうに、解散していきました。

おもす道場に多くの皆様のご支援ご協力頂き、無事円成出来ましたことを御報告し、本誌を以て御礼申し上げます。

8月16日(土)		8月17日(日)	
9:15	集合・受付・班分け等	4:45	起床・寝具片付・洗面等
9:30	開校式・写真撮影	5:30	朝勤 本堂
10:00	境内案内	6:10	五心④
11:30	昼食	6:30	ラジオ体操
12:30	五心①	7:00	掃除
13:30	太鼓体験・竹灯籠作り・五心②	8:00	朝食
	(班ごと交代)	9:00	五心⑤
16:00	数珠作り	9:45	写経・手紙・芝居
17:00	夕食	11:30	閉校式
	レクリエーション		修了証、集合写真配布
20:00	五心③	12:00	解散
20:30	入浴・就寝		

御協力頂いた皆様へ  
協賛  
日蓮宗 山静教区様

## 御供養

山梨(一)・(二)宗務所様  
了仙寺 松井大英様

## 御協力

養仙坊様・東陽坊様  
西之坊様・養運坊様  
蓮行坊様・本妙寺様  
福泉寺様・小林歌子様

おもす孝行太鼓保存会様  
ファイルネット様  
ポスター掲示・チラシ設置  
に御賛同いただいた皆様

## 法華経に学ぶ 第三十三回

布教伝道部 浦野 弘正

## 他土六瑞

さて、前回は仏さまの三十二相の一つ、眉間白毫相から光が放たれる、放光瑞のお話までしました。お釈迦様の眉間から放たれた光によつて照らし出された、東方一万八千といふ数多くの世界でどのような奇瑞が見られたのでしょうか。その照らし出された世界でも、「此土六瑞」と同じように六種の奇瑞があつたことが語り始められます。これがこれからお話しする「他土六瑞」です。

順番に挙げますと、①見六趣瑞 ②見諸仏瑞 ③聞諸仏説法瑞 ④見四衆得道瑞 ⑤見行瑞 ⑥見帰涅槃瑞の六つで、『開結』では六十一頁冒頭から半ばまで、『岩波(上)』では二十頁冒頭から半ばまでです。

## 他土六瑞 ①見六趣瑞

まず、お釈迦様の眉間から放たれた光によつて、東の方角の一万八千の世界が照らし出されると、下は「阿鼻地獄」という「地獄の中でも一番下の世界」から、上は「阿迦尼咤天」という世界までをも照らし出しましました。つまり、十界の内の六道である、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の世界が照らし出されたのです。阿迦尼咤天は「有頂天」ともいい、色界の中でも一番上の世界をいいます。つまり形ある世界の一一番下から一番上までの全ての世界が照らし出されたのです。

## 十界と六道

仏教では迷いの世界と覚りの世界を、下から順に「地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人」「天」「声聞」「縁覚」「菩薩」「仏」の「十」の世「界」に分けていますので、これを「十界」と呼びます。そのうち地

獄界から天界までを「六道」あるいは「六趣」と呼びます。蛇足になりますが、地獄・餓鬼界・畜生界を合わせて「三悪道」、これに修羅界を加えて「四悪趣」と呼びます。いずれも人界より下の良くない世界をいいますので「悪」の字が入つています。

私たちが生まれ変わり死に変わりすることを「輪廻転生」(りんねてんせい・りんねんてんしよう)といいますが、六つの世界をめぐらす。つまり、「六道輪廻」ともいいます。この輪廻から抜け出すことを「解脱」といいました。

それに対して「声聞界」から「仏界」まで

の世界を「四聖」(しちやう)と呼びます。六道輪廻から解脱すると、この四聖の世界に生まれ変わり、六道には生まれなくなります。「四つ」の「聖」なる世界で「四聖」です。十界を二つに分けて、「四聖六道」もしくは「六道四聖」と呼び習わしています。十界と三界、四聖六道の関係は表のようになります。

## 他土六瑞 ②見諸仏瑞

本文に戻ります。「於此世界」(おしせかい)、「この世界において、尽く彼の趣衆生」(しうしうじょうう)です。つまり形ある世界の一一番下から一番上までの全ての世界が照らし出されたのです。

土の六趣の衆生を見る」の部分です。生きとし生けるものを仏教では「衆生」と呼びます。東方一万八千という膨大な世界の中の、このまだ迷つてゐる衆生が六道輪廻する様子が、その光によつて明らかになつたことを最初の奇瑞として「見六道瑞」といいます。

## 他土六瑞 ③聞諸仏説法瑞

同時に、その数多の衆生にお説法をされ、いる様々な仏さま方がいることも、その光によつて見えたといいます。これが二番めの「見諸仏瑞」「多くの仏さまが見えた」という奇瑞です。

## 他土六瑞 ④見四衆得道瑞

さて、迷える衆生が照らし出され、その衆生と共にある仏さま方も照らし出されました。仏さま方は、ただそこにいらつしやるわけではありません。その衆生に対して、救済するべくお説法をなさつて、いる声まで聞こえてきました。これが三つめの「聞諸仏説法瑞」「諸の仏さまの説法が聞こえた」という瑞相です。(続く)

欲界

色界

無色界

六道

四聖

十界と四聖六道、三界の関係		
十界	四聖六道	三界
地獄		
餓鬼		
畜生		
修羅		
人		
天		
声聞		
縁覚		
菩薩		
仏		

第十一回 合同清掃奉仕

七月十八日午前九時より、お盆前の清掃作業を塔中・檀信徒の奉仕により行いました。たくさんの方々のご奉仕に感謝を申し上げます。

奉仕者御芳名

順不同。敬稱略



六月～七月炎天下の中、鈴木執事長と雄大上人・阿部師の三人でお盆をお迎えする前に、本堂回廊及び戸板の高圧洗浄を行い、仁王門・客殿・駐車場等、周辺各所の植木剪定や整備を行いました。

御塔林（五十塔跡地）草刈り

六月二十九日、本門寺司判・  
大世話人の皆様のお力を借り  
して、鬱蒼とした御塔林の草刈  
をして頂きました。

急な斜面の為、足場の悪い中  
の作業ではありましたが綺麗に  
して頂き、五重塔があつた当時  
を偲ぶ事が出来ました。蒸し暑  
い中の作業、誠にありがとうございました。



## 環境整備ご報告

三光池周辺整備完成

また、新三光池には養仙坊様の奉納によつて  
数多くの錦鯉が放流され、彩りを添えて下さいました。

## 本堂シャツターの切断

五月末に本堂の内陣シヤツ  
ターが経年劣化の為、突然落下  
し使用不可能となりました。

修理或いは撤去等の判断と業者選定に約二ヶ月の時間を要しましたが、最終的にシャツターを切断し撤去する事となりました。八月のお盆前に作業が完了しました。ご参拝の皆様には、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申上げます。



教学研修会開催

六月二十六日 第十  
講 本間俊文先生（立正  
大学）「日興上人の曼  
荼羅本尊書写（一）」を  
ご講義を頂きました。

七月二十五日 第九  
講 三輪是法先生（立正  
大学）第四回「近代に  
おける日蓮研究」並び  
に、十月三日 第十講  
第五回「近代における  
日蓮研究」を主題とし  
てこの度も貴重なご講  
義を頂きました。

九月四日、布教研修所より、八名の皆様が本門寺へと研修参拝の為、来寺されました。

九月二十三日、御彼岸中日に客殿において法要が営まれました。

A large, ancient cedar tree stands tall in a field of red spider lilies. The tree's massive trunk and spreading branches are a prominent feature against a clear blue sky. The red flowers of the spider lilies are scattered across the grassy lawn in the foreground.

## エアコン設置

旭日重貫首貌下より、方丈にエアコンを設置して頂きました。

龍神図展開催

九月十三日から十五日までの三日間、本門寺本堂内において、長谷川真弘師による龍神図展が開催されました。また来場された方に対しても、ご希望があれば御開帳も行われました。全国各地より約三百名程の拝観者が訪れました。

※本門寺施設一部を開放しておりますのでご利用希望の方は、寺務所までお気軽にお問合せ下さい。



## 新寂回向の御報告

菩提寺様よりお申しびを  
いただきました新寂靈位は  
日々の晨朝勤行にて御回向  
させていただいております

護山志納金の報告

令和七年  
度分  
塔中  
市内  
西之坊様  
本源寺様

十一月	九日	千葉県蓮成寺団参
二十四日	境内清掃奉仕	
二十八日	茨城県大谷寺団参	
十一月	二日	御達夜法要
十二月	三日	宗祖御会式
三十一日	八日	長野県深妙寺団参
		大晦日・新年祝祷会

## 本門寺の主な予定

令和七年度分  
塔中西之坊様  
厚く御礼申し上げます